

キーワード 地域通貨を活用したボランティアの取り組み、高齢者サロン

地域通貨を活用した交流拠点「サロン・なんだ村」

岡山県 岡山市

【この事例の特徴】

高齢者や障害者が社会で孤立するのを防ぐため、NPO 法人が運営するサロンで、各種教室や交流事業などを行っている。サロンにおけるボランティア活動に対して施設内で使用できる地域福祉通貨を支払い、地域通貨を入村料や送迎料として利用してもらうことで活動の活性化につなげている。

地域概要

総人口:	701,923 人
65 歳以上人口:	160,856 人(22.9%)
75 歳以上人口:	79,570 人(11.3%)
要介護要支援認定者数:	33,611 人(20.9%)
地域生活支援センター数:	6 ヲ所
第5期介護保険料:	5,520 円



背景・経緯

【背景】

- サロン・なんだ村がある岡山市南区宗津は平成 17 年に岡山市と合併した旧児島郡灘崎町にあり、旧灘崎町は岡山市域の南端に位置し、町域の大半が干拓地で農地が広がっている。
- このような地域環境のなかで、合併による周辺部の地域福祉の後退を防ぐため、活動が始まった。

【経緯】

- 平成 18 年 5 月 : なんだ村運営母体「NPO 法人ホッと灘崎ボランティアネット発足」
- 平成 19 年 10 月 : 福祉有償運送事業を開始
- 平成 20 年 4 月 : なんだ村開村。月・水・木・金が開村日。なんだ村への送迎を実施(有償)。

取り組み内容と方法

【概要】

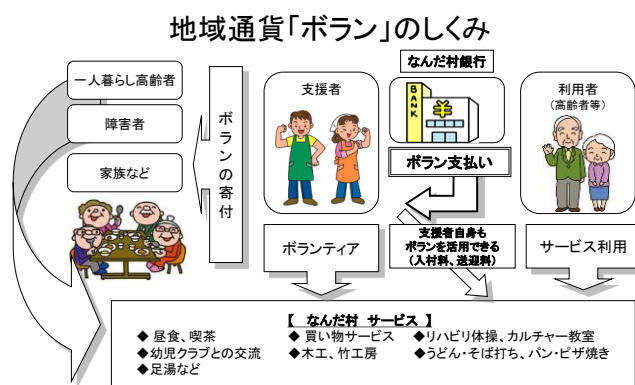
- 閉じこもりがちな一人暮らしの高齢者や障害者が社会で孤立するのを防ぐため、高齢者サロン「なんだ村」では、以下のような誰もが楽しく気軽に参加できる様々な活動を行っている。
 - ◇ 昼食や喫茶の提供
 - ◇ 買い物サービス
 - ◇ リハビリ体操、カルチャー教室、介護相談、詩吟、歌、合唱などの各種教室
 - ◇ 幼児クラブとの交流
 - ◇ 木工、竹工房
 - ◇ こだわり工房として、うどんやそば打ち、石釜でのパンやピザ焼き
 - ◇ 冬場には足湯など

【実施主体】

- NPO 法人ホッと灘崎ボランティアネット

【取り組み方法:地域福祉通貨の活用】

- サロン『なんだ村』では、ボランティア活動に対する報酬として、施設内で使用できる地域福祉通貨『ボラン』が支払われる。
- ボランは、入材料や送迎料へ利用可能である。
- ボランは、支援者自身が使用する以外に、家族や近所の高齢者、障害者のために使用(寄付)することも可能で、新たなサロン利用者、ボランティアの拡大が期待できる。
- 支援者の意欲や事業の継続性が向上することで、利用者に対して、安定的に充実したサービスが提供可能となる。



取り組みの成果と課題

【活動実績】

- 利用者の資格要件は無く、平成 24 年度は延べ約 4,000 人の利用があった。
- その活動を支える支援者は全てボランティアである。(常勤 3 名、ボランティア活動登録者約 30 名)

【成果】

- 積み立てた地域福祉通貨「ボラン」は融通(寄付)可能で、本人が利用しない場合でも、家族や近所の高齢者、障害者のためにボランを使用することも可能で、利用者の拡大を図るとともに、支援者の意欲の向上、事業の継続性も高めている。
- これらの活動が、高齢者等の外出意欲、閉じこもり解消につながっている。また、初期の認知症の方にとっても快適な居場所として活用されている。

【今後の展望と課題】

- 開村から5年が経過し、ボランティアの方も高齢になりつつあり、新たな人材確保が課題となっている。
- 今後はサロン・なんだ村を地域の交流の場としてだけでなく、避難所の機能を持った、福祉、環境、防災の総合的な拠点として整備していく。

参考 URL、連絡先

- 岡山市 保健福祉局 高齢者福祉課
http://www.city.okayama.jp/hofuku/kourei/kourei_00113.html
086-803-1230